

## ◆重点普及課題

### 沖縄県海ぶどう協議会の再構築に向けた取り組み

水産海洋技術センター本部駐在 上原匡人  
水産海洋技術センター普及班 紫波俊介・久保弘文  
宮古農林水産振興センター 吉田 聡  
八重山農林水産振興センター 赤嶺貴史・山田真之  
水産課 善平綾乃・平安名盛正

#### 1. 経緯

クビレズタ（以下、海ぶどう）は、沖縄県の養殖生産量・額ともに第3位を誇り、本県を代表する特産品として広く認識されるようになっている。平成22年5月には、安全・安心かつ高品質な県産海ぶどうを供給するため、また競争力強化や販路拡大に向けた生産者間の意識共有と連携強化を図るため、沖縄県海ぶどう生産者協議会（以下、協議会）が設立され、沖縄県も県産海ぶどうのブランド構築に向けて様々な支援を行ってきたところである。

しかし、協議会の活動は、平成25年7月末に県産海ぶどうブランド化雇用事業が終了後、海ぶどう用餌料の購買事業を除いて活動が休止している状況にある。観光立県である本県への観光客数は増加を続けており、依然として県産海ぶどうの需要が高く、産業規模で10億円を超えるまでに成長していることから、協議会の活動休止に伴う県産海ぶどうのブランド力低下や販路停滞等が懸念される。ここでは、県関係機関が連携し、協議会の再構築に向けた取り組みの支援を行ったので、その概要について報告する。

#### 2. 取り組み内容

##### （1）平成27年6月22日

水産課会議室において、恩納村漁協の当真会長と県関係者が出席し、海ぶどう協議会の現状について状況を確認し、今後の方針につ

いて意見交換を行った。

##### （2）平成27年11月16日

恩納村漁協の加工センターにおいて、当真会長と県関係者が出席し、現在の取り組み状況の進捗について確認を行った。

##### （3）平成28年1月20日

車エビ組合会議室において、当真会長、安里副会長、県関係者が出席し、改めて海ぶどう協議会の現状について状況を確認するとともに、今後の体制や方針について意見交換を行った。今後の活動方針の案を作成し、年度内に役員会を開催することとなった。

##### （4）平成28年3月24日

当真会長、安里副会長、屋良氏、宮國氏、比嘉氏らが出席し、海ぶどう協議会の役員会が開催された（県関係機関はオブザーバー参加）。はじめに当真会長より、役員会開催の趣旨と休止期間中の購買事用の収支について説明された。その後、協議会の再構築に係る意見交換が行われ、再加入に際しては、同じ目標をもつ生産者が覚書に署名することで一致した。

#### 3. 今後の課題

ようやく再構築に向けて活動が活性化しつつある。しかし、今後の協議会の体制、再構築を図る際の参集範囲など様々な課題が山積している。引き続き、関係機関と連携を図りながら、支援していく必要がある。



平成 28 年 3 月 24 日に開催された海ぶどう協議会役員会の様子